

地域の消費生活活動に生かす短大被服教育

-リフォームファッションショーでの発表を通して-

上野学園大短大 遠山千代子

【目的】“経済社会の激しい変化に即応し、真に豊かな市民生活を築く知識や情報を広く提供し、市民意識の高揚を図り、健康でゆとりのある文化生活が営めることを目的とする”という消費生活展の主旨に賛同し、その中で短大被服教育を生かすことを目的とした。

【方法】埼玉県草加市主催の第29回消費生活展（1997年6月）、ならびに第30回消費生活展（1998年6月）において開催されたリフォームファッションショーに、本学家政科の学生約50名が各自で創作したリフォーム作品を着用して出場、モデルとなって発表した。

【結果】リフォーム作品発表の直接的動機は地域（草加市）からの要請であったが、平日頃から家政学専門科目の授業で消費生活問題などを学習する機会が多々あり、地域とは望ましい協力体制にあった。そのような基盤の上で実施された試みであったためか、下記のように予想以上の成果を挙げることができ、学生にとっても大変有意義なものとなった。

①地域のしかも多世代の人々との交流が活発に行われた。

地域の様々な消費者団体の存在とその活動を認識することができ、モデルとなった1歳から80歳までの方々とはステージの友となることができた。

②消費生活の見直しで、消費者としての自覚が再確認された。

タンスに眠っている衣類を生かしてリフォーム「ステキに変身」させる、すなわち資源の活用で環境問題に僅かながら貢献できる充実感を味わうことができた。最近、古着は若者の間で新鮮なファッションとして見直され、安価でもあり抵抗感無く受け入れられている。

③短大被服教育に期待されるひとつの新しい方向が示された。

創意工夫が生かされ、発表機会が設けられたことで、学生の被服制作意欲は大変向上した。